

# 各農地バンクのさまざまな取組

File

1

## 樹園地における 出し手農家の掘り起こし (青森県)

■りんご園地については、農家の離農時に次の受け手にマッチングされない場合、病害虫等による近隣園地への影響から、生産力のある園地であっても伐採し、廃園せざるを得ない状況。



■こうした樹園地を維持・確保するため、機構の農地相談員、県（りんご果樹課）とつがる弘前農協が連携して、**高齢のりんご農家等を訪問し、今後の営農意向や園地継承希望について、直接聞き取り**を行っている。



■また、弘前市では**独自の事業（園地継承円滑化システム※）**に取り組んでいるが、貸借は農地バンクの活用を事業要件としていることから、農地バンクの活用に繋がっている。

### ※ 園地継承円滑化システム

後継者不在園地等の樹体と農地を一体で、円滑に継承（売買・貸借）できるよう、品種構成、接道や水源の状況等、詳細な園地情報と位置図からなるシステムを構築し、検索しやすい形でホームページに公開。

登録された園地が一定の要件を満たして受け手へ継承された場合、園地の出し手に対して弘前市から奨励金（市単独補助）を交付。



File

2

## 「農地の貸し借りは農地中間管理機構へ」 ポロシャツ着用の効果 (栃木県)



■背中に「**農地の貸し借りは農地中間管理機構へ**」と入れたポロシャツを着て、銀行に行ったところ、隣の女性から「**農地、借りてもらえるの？**」という質問を受けた。

話を聞いたところ、市街化区域の農地だったため貸借には繋がらなかったが、その後も質問を受けることが多く、PR効果は高いと思われる。

■当会社の畜産事業部の職員がこのポロシャツを着用し出張したところ、**事業参加者等が興味を持ち、そこから農地バンクの活用に繋がった。**

# 各農地バンクのさまざまな取組

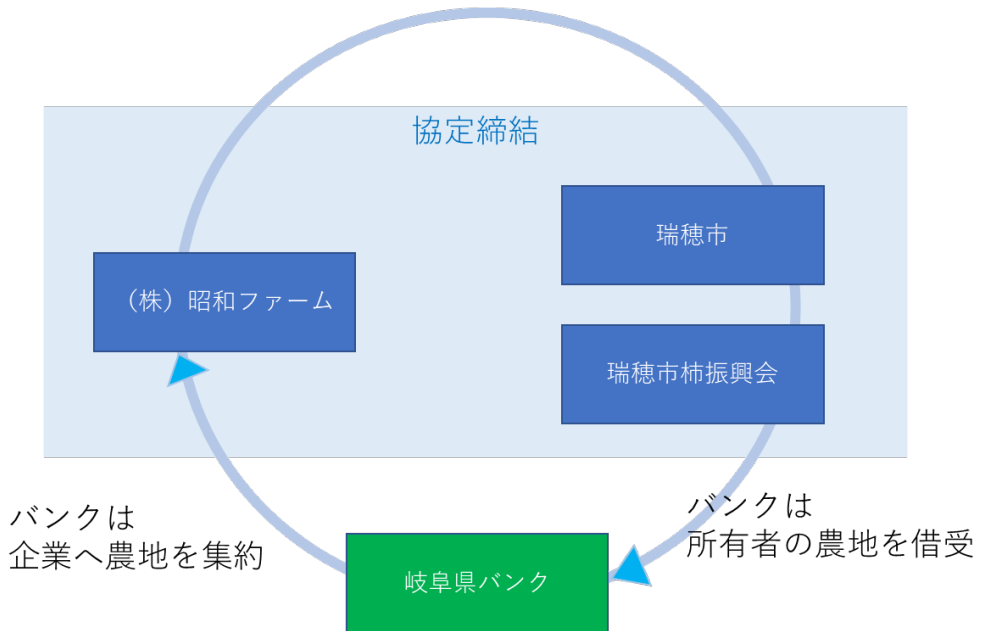
File

3

市をまたいで参入企業と連携し  
柿畑の遊休農地化を未然に防ぐ取組み (岐阜県)

■岐阜市で柿やハウレンソウの生産を行う企業 ((株)昭和ファーム) が、柿生産の規模拡大のため、岐阜県バンクに相談。

■岐阜県バンクは、富有柿発祥の地である瑞穂市（離農等による遊休農地化が懸念される柿畑がある）と協議のうえ、同市内の柿畑をバンク事業を用い企業へ集積していくことで合意した。



■瑞穂市、同市柿振興会、(株)昭和ファームは、産地維持や柿畑の遊休農地化の防止を目的に、岐阜県農畜産公社立ち合いのもと協定を締結。

瑞穂市柿振興会会員約70名を対象に、(株)昭和ファームの事業内容、借受ける樹園地の条件、機構事業による貸付の仕組みやメリット等を紹介。

貸付意向のある柿畑について、今後も継続的に同社への農地集約を進めていく。

File

4

名刺にひと工夫 (岩手県)

■岩手県の農地バンク（公益社団法人岩手県農業公社）では、職員の名刺の裏に、農地中間管理事業の仕組みを説明した図と、農業公社のHPのQRコードを載せ、事業のPRを図っている。

